



米国における循環器集中治療

長澤 智一

コロラド大学病院附属メモリアル病院

循環器集中治療 (critical care cardiology) は最近循環器のなかの subspecialty としても注目をあびており、5年ほど前から米国心臓病学会 (ACC) の Core Cardiovascular Training Statement (COCATS) 内にも取り上げられている。集中治療専門医、それを目指す若手医師をはじめ、専門ナース、臨床工学技士、さらには各科臨床医との連携が重要で、患者の予後を左右する。中でも、集中治療部門に属する CCU (コ罗纳リー・ケア・ユニット (Coronary Care Unit)) では、生命の危機に瀕した重症患者、急性心筋梗塞や狭心症などの心臓発作の患者を 24 時間を通して濃密な観察のもとに、先端医療を駆使して集中的に治療する。CCU 発症の地である米国では、急性心筋梗塞の発症が極めて多い一方、日本では急性心筋梗塞は増加したとはいえ米国に比べれば患者数も少なく、また再開通療法の普及に伴い、心筋梗塞の予後成績も高い。

今回は、臨床工学技士の資格を取得後、20 年前に渡米し、現在はカテーテル技士 R.C.I.S. (Registered Cardiovascular Invasive Specialist) として勤務してきた経験をもとに、米国における循環器集中治療および最新の循環器デバイスについて紹介させていただく。